

(専門科目)

科目名	特別講究 (初中等教育の社会学) 英語名 : Special Seminar on Elementary and Secondary Education	必修/選 択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	土岐 玲奈	

【授業概要】

博士 (教育) の学位を持つことになる教育研究者・実践者として、社会における教育の役割と意義を理解し、初中等教育を中心に、教育について、自身の実践を含む個人 (ミクロレベル) から社会 (マクロレベル) まで、俯瞰的かつ領域横断的に見渡し、適切な課題を発見・設定する力を涵養する。また、自身の実践を俯瞰的に捉え、分析することによって得られた知見を、教育現場での問題解決に生かすため、積極的に研究成果を発信していく能力を持つことを目指す。

そのため本科目では、実践的、臨床的課題を多く取り扱う。例えば、「心の問題」とされることの多い不登校と、社会経済的理由に大きく依存する不就学を「学校へ行かない子ども」問題として包括的にとらえ、子どもが被る可能性のある不利益について長期的スパンで考える視点などを示す。

【キーワード】

初等中等教育・学校へ行かない子ども・多様な学び・教育と福祉の連携・メゾレベル

【授業の到達目標】

1. 自身の専門分野の教育について、個人 (ミクロレベル) から社会システム (マクロレベル) まで含む包括的な視点で俯瞰する能力を持ち、これを自身の実践にも適用し、適切な「課題」を発見できるようになる。
2. 実践的課題意識にもとづく研究を遂行し、そこで得られた学術的知見を、自身の現場で生かせるようになる。
3. 研究によって得られた学術的な知見を、多くの実践家に届けられるよう、具体的かつ分かりやすく発信できるようになる。

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション
2	社会の中での学校の役割
3	学校における教師の教育観
4	「学校へ行かない子ども」の諸相ー不登校・長期欠席・不就学
5	学校とは何かー制度内外における多様な学習機会の確保
6	学校とは何かー対面教育と遠隔、通信教育
7	教育支援の場としての学校ー学びにまつわる困難と〈学習ケア〉
8	「支援のプラットフォーム」としての学校ー子どもの貧困、児童虐待を中心に
9	多様な子どもと学校ー包括的性教育
10	多様な子どもと学校ー個別最適な学びと対話的な学び
11	教育と福祉の連携
12	教師の多忙化とメンタルヘルス

13	学校における臨床の学を俯瞰する－教育学・社会学・心理学を中心に
14	臨床の学を俯瞰する－ミクロ・メゾ・マクロレベルの視点から
15	全体総括

試験

【履修にあたっての準備・履修上の注意点】

初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。

【スクーリングでの学修内容】

本科目では、実践上の「課題」を自明視するのではなく、課題意識そのものの正当性を問い直し、適切な「課題」の設定を目指す。

学修初期のスクーリングは、授業の目的や学修の概要、学生が有する教育実践上の課題や問題関心を確認するために行う。そのため、スクーリング前に、文献の予習を行うとともに、自身にかかわる教育上の課題についてまとめておく。スクーリング後は、自身の問題関心がどのような研究上の文脈に位置づくのかを明示するため、先行研究の検討を行う。受講生は、スクーリングを踏まえ、これらの成果をレポートにまとめる。

学修中期のスクーリングは、初回で確認された各自のテーマに基づき、俯瞰的な視点の確認と涵養を目的として行う。そのため、スクーリング前に、先行研究をまとめるとともに、自身の課題意識が個別具体的なもの(ミクロレベル)か、一般的、抽象的なもの(マクロレベル)か、いずれにもまたがるもの(メゾレベル)かを明らかにしておく。スクーリングにおいては、課題に対する異なる視点からのアプローチの可能性について議論する。スクーリング後には、視点の広がりや、いかに課題そのものの捉え方に影響を及ぼしたかを振り返り、課題を適宜修正、再設定する。受講生は、スクーリングを踏まえ、これらの成果をレポートにまとめる。

学修の後期のスクーリングでは、科目修得試験としてのレポート作成に向けた、全体のまとめを行う。そのため、スクーリング前に、前回のスクーリングを踏まえて設定された「課題」について、解決に向けた方針を策定しておく。

スクーリング終了後は、科目修得試験に取り組む。科目修得試験(レポート方式)では、本科目において検討した「課題」について、研究する意義や必然性を明らかにしたうえで、解決への道筋を示すことが求められる。また、上記プロセスにおいては、課題意識の変化が実践にもたらす影響についても常にセルフモニタリングを行い、研究と実践との相互作用についても科目修得試験課題の内容に含むこととする。

スクーリングはこの3つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。なお、スクーリングやレポートの詳細は、オリエンテーション時に説明する。

【評価方法】

合否については、レポート2本(50%)、科目修得試験(50%)で評価する。

【教科書】

苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学』有斐閣、2023。

【参考図書】

小野善郎・保坂亨『続・移行支援としての高校教育』福村出版、2016年。

酒井朗『進学支援の教育臨床社会学』勁草書房、2007年。

土岐玲奈『高等学校における〈学習ケア〉の学校臨床学的考察』福村出版、2019年。

保坂亨『学校と日本社会と「休むこと」』東京大学出版会、2024。

山野則子『学校プラットフォーム』有斐閣、2018年。

油布佐和子編『教師の現在・教職の未来』教育出版、1999年。

【教員メッセージ】

・スクーリングでは、受講者の皆さんが自身の考えや物事の捉え方についての枠組みを言語化することにより、共有するとともに、再認識するプロセスを重視します。

【備考】特記事項なし